

宮城県石巻市・震災復興学習支援 レポート⑥ 私塾ネット 出前寺子屋「漢検合格講座」



出前寺子屋 in 石巻「漢検合格講座」の仕組み

活動期間：2011年8月16日～2012年2月4日

- ①説明会&級位判定もぎテスト
定員に達したため12月まで一般公募は締切。
- ②スクーリング
9月4日、18日、10月2日、16日、11月5日、20日、
12月11日、25日（いずれも14:00～16:00）
2012年1月以降も継続実施。検定教材を自宅学習し、スクーリングで進
度チェックと確認テストを実施。小中高生徒には学習指導も同時実施。
- ③漢検受検
第2回検定11月5日、第3回検定2012年2月4日。
- ④受講対象者
仮設住宅、借上げ住宅等に居住する被災市民。
- ⑤受講者特典
・教材費・スクーリング受講費・検定料の全額が無料。

第1期講習生11月検定18名受検。

受検者内訳：2級2名、準2級2名、3級9名、
4級3名、6級1名、7級1名 全員合格を祈念

◆活動報告その⑥[2011年11月5日]

上野発7時50分、いつもより1電車早い東北新幹線の「やまびこ」仙台往きに乗る。私、谷村和枝に仙台までは同行者がただ一人、AIM講師の小川大輔だけである。大きな荷物2つを2人で手分けし、ガラガラと引いていく。心もとなさが頭をかすめる。いつも同行する谷村志厚塾長は、自塾での検定実施のため松戸に居残りである。仙台駅で東北大学準教授の村山氏(元AIM講師)が合流し、東北本線松島駅にて石巻での協力者木伏氏の車に乗る。これで本日のスタッフ4人が揃った。

私にとっては9回目となる石巻、今回は同行に初参加者がいないので、一気に被災地の門脇地区に向かう。門脇小学校に近づくと、人と車の行き来がえらく多い。ドライ・ラマがつい先程まで同小にいた、と校庭から校舎を見上げている人が教えてくれた。



いまや東日本大震災の石巻の記念碑的存在の門脇小学校。この日はドライ・ラマが視察に訪れていた。

我々4人は校舎に向かう。「立ち入り禁止」の札が下がった紐が校舎に括りつけてあるが、間近に近づくことができる。津波で窓ガラスの大半が割れているので、教室内の惨状が隠れることなく目に飛び込んでくる。息をのむ教室内の光景が続いていく。少し落ち着いてきて、校舎全体を見ていくと、右側が皆黒く焼けこげていることが分かる。左の端の教室は、津波による散乱状態のすごさはあるが、燃えた跡はない。校庭に駐車してあった車が校舎の右はじにぶつかり、火を出し、ここから燃え広がったのかもしれないと推測できた。そして、2階の教室は燃えた跡があまりないのに、3階は各教室が全焼である。校舎が一様に燃えたのではなかった。



昇降口は3月の被害時そのままの様相である。手前には赤いランドセルや青い手提げカバンも残されたままだ。

この状況の中、3月11日、同小にいた児童は全員が怪我一つせず、すぐ裏手の日和山へ逃げきったのである。「走れ上へ、走れ」と教師に掛け声をかけられて、本日6級の漢字検定試験を受けるK君も逃げきったのである。

その後、大きな途切れもなく、門脇小は他の被災小中学校と同様に、被害の少なかった学校に間借りをしながら、教育機能を維持していくのである。児童の生活基盤の避難所が二次避難をして蔵王温泉に移転すれば、同小も廃校となった蔵王温泉内の分校で教室を再開し、学校

教育を継続したのであった。この一連の流れを目にし、耳にした時、支援者の側に立つ我々は、現場の教師の気概を忘れてはならない、そんな思いを新たに、門脇小を出て開成仮設団地に向かった。

開成仮設第11団地のいつもの北集会所に2時20分前になると、受講者が集まりはじめる。本日の受験者の席から人が埋まりはじめる。席に着くと、大半の人が最後の見直し、とばかりにテキストを広げる。こうして2時2分前には18名の受験者、6名の学習者の全員がそろった。



検定風景。テーブルがそろっていないため、小さな座卓を使った受験を余儀なくされた受験生もいた。そんなハンディキャップにもひとことの不満も出ない。

午後2時丁度、講座の今後のスケジュールと合否結果の通知法等を私が説明した。このスケジュールは村山先生が先程、手早く、的確に書いてくれたものであった。この後、小川先生が大きな声でハッキリと答案用紙の記入法を説明し、2時14分に試験が開始された。会場に時計がない為、「残り30分です」、「残り10分です」、「後5分です」と肉声アナウンスが入り、3時14分に試験は終了した。



こちらは、座卓テーブルをゆったりと使った非受験の学習グループ。東北大学の村山先生が指導を担当した。

この後、村山先生による「今年の漢字」とアンケートについての説明があり、受講生が快く記入をしてくれ、用紙が回収された。こうして本日の全てが終了した。帰り際、小学生はお菓子を、中学生は文房具を、そして全員が集会所内で写っている自分の写真を受け取り、少しばかりの疲労感を漂わせながら受講生は会場を出て行った。木伏、村山、小川、そして私、本日は最強の布陣であったとの思いを胸に、我々も家路についている。 2011年11月5日 AIM学習セミナー 谷村和枝

主催：全日本私塾教育ネットワーク（略称・私塾ネット）